

ほっとネット

Contents

- P1 巻頭言**
心不全パンデミックとGDMT
副院長 長谷川 徹
- P2 診療科発**
麻酔科
麻酔科 科長 村上 真一
- P3 特集**
能登地震派遣について
プライマル科 科長 中川 麗
- P3 新任医師紹介**
- P4 部門紹介**
臨床検査室
臨床検査技師 藤原 和希
- P4 新任医師紹介**
- P5 言語聴覚士について**
言語聴覚士 磯崎 孝輔
- P5 新任医師紹介**
- P6 地域発**
医療法人社団 西さっぽろ皮フ科・アレルギー科
副院長 宮澤 元先生



JR札幌病院 外来診療医師予定表

JR札幌病院 基本理念
心の通う医療
信頼される医療
地域社会に貢献する医療

基本方針

1. 社会のニーズに合った専門的な医療を提供するよう、医療技術の向上に努めます。
2. 患者様の権利を尊重し、プライバシーを守ります。
3. 地域の各機関との連携を重視し、地域医療に貢献します。
4. JR北海道の職域病院として、社員・家族の健康増進に寄与します。



R5.1.4日本医療機能評価機構より、3rdG:Ver2.0の認定を受けました。



巻頭言

心不全パンデミックとGDMT



副院長

長谷川 徹

現在、日本には120万人の心不全患者がいると推定されており、心不全パンデミックと言われています。心不全は予後不良の疾患であり、日本における3つの急性心不全の登録研究では1年後の死亡率は20%程度と報告されています。

心不全(HF)は心機能(EF)の程度によって3つに分類され、心収縮力が低下したHF-rEF(レフ)、心収縮力が保たれたHF-pEF(ペフ)、その中間のHF-mrEF(エムレフ)と呼びます。

心不全治療は、診療ガイドラインに基づく標準的治療(GDMT: guideline-directed medical therapy)の重要性が示されており、HF-rEFに対してはサクビトリルバルサルタン(ARNI)、β遮断薬、ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬(MRA)、SGLT2阻害薬の4剤が必須薬剤であり、さらにベリシグアトや利尿剤を追加し治療をします。またHF-pEFに対してはARNI、SGLT2阻害薬を投与し、必要に応じて利尿剤などを追加します。

β遮断薬やMRAは古くから使われてきた心不全治療薬です。

ARNIとはアギオテンシンⅡ受容体拮抗薬とネプリライシン阻害剤の複合体です。心不全ではレニン-アングイオテンシン-アルドステロン系が亢進し体液が過剰に貯留した状態ですが、バルサルタン(アギオテンシンⅡ受容体拮抗薬)やMRAは、この悪循環を断ち切る働きをします。ネプリライシン阻害剤は内因性のナトリウム利尿ペプチドの効果を増強する作用があり、心不全に効果を発揮します。

最近注目されている心不全治療薬がSGLT2阻害薬です。SGLT2阻害薬の代表的な薬剤はフォシーガ10mgとジャディアンス10mgです。SGLT2阻害薬はも

ともと糖尿病治療薬として発売され、尿中にブドウ糖を排泄することで血糖を低下させる作用があります。

糖尿病患者ではフォシーガ10mgやジャディアンス10mgを内服していると内服していない患者に比べ、心不全の発症リスクが低下すると2015～2018年に発表されました。

その後、慢性心不全の患者では糖尿病の有無にかかわらずフォシーガ10mgやジャディアンス10mgを投与することによって、心不全の再発リスクが有意に低下することが臨床試験で示されました。この心不全再発予防効果はHF-rEFやHF-pEFなどの心機能によらず一貫して発揮され、現在ではガイドラインにより心不全治療薬として投与を強く推奨されています。また臨床試験の解析からは早期の投与が望ましいと考えられます。

心不全の再発を予防するためには、食事療法(減塩)、運動療法、GDMTが重要であり、処方された薬をきちんと服用することが必要です。

なお心不全を発症するリスクの高い基礎疾患は心筋梗塞、糖尿病、高血圧などです。

心筋梗塞の危険因子としては脂質異常症や喫煙が挙げられます。従って心不全にならないためには禁煙をし、糖尿病、高血圧、脂質異常症などの包括的管理が求められています。

息切れや浮腫みのある方は心不全の可能性がございますので是非ご相談・ご紹介ください。

診療科発

麻酔科

【診療内容】

手術時の全身麻酔、局所麻酔手術時の鎮静管理のほか、高度治療室(ハイケアユニット以下HCU)での集中治療管理や緩和ケアにも関わっております。

【当科の特徴】

麻酔科は、安全に手術が行えるように手術中の患者の全身管理を行う診療科です。

当院麻酔科では、全身麻酔で手術・検査を受けられる全ての患者さんおよび局所麻酔での手術を受けられる患者さんの一部に対して、麻酔科専門医が診療を行います。

麻酔科医が行う麻酔を受けられるすべての患者さんは、手術前に麻酔科医が直接診察を行い、全身状態の評価をさせていただき、最も安全と考えられる麻酔方法を選択し、説明をさせていただいております。

麻酔の方法は、全身麻酔のほか、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔やエコーガイド下末梢神経ブロックなども併用して行っております。そのほか、鎮静が必要な局所麻酔手術においても、一部は鎮静管理を麻酔科専門医が行っております。

全身麻酔を行うと呼吸・循環の状態が変化しますので、手術中は常に患者の近くにおいて、適切な麻酔深度を保ちながら、呼吸・循環管理も行います。手術後は意識を回復させ、呼吸循環を整え安定させるのも麻酔科医の仕事です。必要に応じ、HCUで引き続き診療を行います。

当院では、麻酔科医を中心に看護師、薬剤師と連携した術後疼痛管理チームが稼働を開始しました。手術後の痛みおよび副作用、合併症の評価を行い、鎮痛薬の調節、副作用の対応を行っています。

そのほか、HCUでは、鎮静・鎮痛・呼吸管理を中心に、手術後の患者のほか、重症患者の集中治療管理にも関わっています。また、緩和ケアチームにおいても、痛みのコントロールの専門家として、疼痛コントロールを中心に関わっております。

【スタッフの紹介】

5人の麻酔科専門医が在籍しております。

顧問

麻酔・手術部長 清水 斉

日本専門医機構 麻酔科専門医

日本麻酔科学会指導医

日本ペインクリニック学会専門医

日本集中治療学会専門医

科 長 村上 真一

日本専門医機構 麻酔科専門医

日本麻酔科学会指導医

主任医長 木村 慶信

日本専門医機構 麻酔科専門医

日本麻酔科学会指導医

日本集中治療学会専門医

医 長 垣本 和人

日本専門医機構 麻酔科専門医

非常勤 高田 結理

日本専門医機構 麻酔科専門医

【連携について一言】

当院麻酔科は、緊急手術にも迅速に対応できる体制を整えております。

各診療科の診療の一助となれば幸いです。



麻酔科
科長

村上 真一



特集

能登地震派遣について



プライマル科
科長
中川 麗

この度は、災害派遣にあたり、様々なご支援、誠にありがとうございました。おかげさまで、無事、2回の派遣を終えることができましたので報告申し上げます。

日本医師会経由で、JR札幌病院JMATとして2回、研修医高木医師、看護部金子主任、湘南大磯病院所属看護師のみなさまと能登北部で活動させていただきました。

1月末と2月末に2回1週間ずつ伺いましたが、現地では、ビルも横に崩れ、水の確保にも難渋しているような状況でした。しかし、1番崩れてしまったのは信頼関係であり、確保に難渋していたのは見通しだったかもしれません。正直、支援者に対しても支援者の間においても地割れがあったかと思えます。しかし、そんな中も、私たちが伺った時間、少しずつ地元の医療機関や様々な隊との間に新たに築かれた未来を感じられた事はひとえに、チームの努力と忍耐、送り出さてくださったみなさまの知恵と配慮によると思えます。家も失い、家族も失い、ある意味、人生を奪われて、それでも頑張る医療者達から、彼らが続けて来た方法や、誇りは奪えな

い。私たちが前例や、活動内容にこだわるのではなく、彼らが解決したい方向へ手助けし、決して評価したり、指示したり、ましてや指導するのではなく、彼らを支援し、彼らの指示を受け、手足となろう。そう黙々と、1ヶ月ぶりの入浴を介助し、誠意を尽くしてくれました。そして、現地をすでに偵察して準備いただいたかと思うほど、行き届いた準備があったからこそ頑張る事ができました。100年以上、北海道のインフラを支えてきたJR北海道が、本気を出して準備するとこんなに物やシステムが揃うのか。と、現地や他の隊、医師会も驚いていました。

個人的には、災害派遣のリーダーをする力量不足を痛感させられる体験でもありましたが、石川で頑張っている医療者のたくましさ、仲間の素晴らしさと支えてくださる方々、出会いに恵まれた人生に感謝する派遣でした。そして、3年前こちらに就職面接を受けた自分を褒めてあげたいと思いました。こうして素晴らしい環境と仲間と働いてくることができた事、心より感謝しております。重ねまして、貴重な経験の機会をいただきありがとうございました。今後ともよろしく願い申し上げます。



新任医師紹介

- ①略歴 ②専門分野
- ③特技・趣味 ④一言



腎臓内科
井垣 勇祐
(いがき ゆうすけ)

- ①平成24年札幌医科大学卒、同内科学第二講座に入局。札幌医科大学附属病院、帯広厚生病院、旭川赤十字病院を経て令和6年4月より当院勤務。
- ②循環器内科、腎臓内科一般
- ③旅行、飲食店巡り
- ④丁寧、親切的な診療を行うよう努力して参ります。宜しく願い致します。



外科
西舘 敏彦
(にしだて としひこ)

- ①平成12年札幌医科大学卒業、同第一外科入局、札幌医科大学、市立室蘭総合病院を経て、2024年4月から当院勤務。
- ②消化器外科、内視鏡外科
- ③散歩
- ④患者さんの気持ちに沿って、良質な医療を提供できるように尽力していきます。



外科
石村 陸
(いしむら りく)

- ①令和2年に札幌医科大学を卒業し、同消化器・総合、乳腺・内分泌外科学講座に入局。函館五稜郭病院での勤務を経て令和6年4月より当院勤務。
- ②消化器外科
- ③テニス
- ④患者さん一人ひとりに寄り添った診療を心がけて参ります。若輩者ですがよろしく願いいたします。

部門紹介

臨床検査室

臨床検査室は、病理医を筆頭に16名の臨床検査技師により業務を行っています。検査内容は分野別に、病理検査・細菌検査・生理機能検査・検体検査の4部門があります。更に、国際細胞検査士・認定輸血検査技師・超音波検査士ほか、国家資格とは別に認定資格を保有するメンバーが在籍し、新人の指導や未経験分野に対応する技師へのアドバイスなど、移り変わりの多い業務内容に対し、協力しながら日々検査を進めています。

今回、検査室を紹介するにあたり、診療科数が19科ある当院ですが、院内で検査可能なオーダー項目数はどれくらいあるのか？と調べたところ、特殊項目も含め350種類ほどです。オーダーされた検査に対し、それぞれに適した前処理や、機器に関するメンテナンスを行います。そして時には、医師や看護師への相談・提案など他部門との連携を取りながら、正確な結果を報告することが最優先であると考えています。

さて、検査室内でもここ数年の大きな変化は、やはり、新型コロナウイルス感染症の発生です。2023年5月から5類感染症へ移行後も、発熱などで受診し感染が確認されるケースも多く、冬季はこれに加えインフルエンザが流行しました。症状がある際の外来受診及び入院時には、ウイルスに対する迅速検査は必須です。当院はこれまで新型コロナウイルス判定には、2021年2月から、スクリーニング検査としてID NOW(迅速PCR検査・15分)を実施し、陽性の場合GeneXpert(RT-PCR・50分)のCT値による判定を報告してきました。しかし最近、スクリーニング検査での判定が、過去の感染により陽性となることも多く、最終報告に時間を費やすケース(RT-PCRでの再検査)が起きています。

これらを改善すべく迅速PCR検査に変わり、2月より新た

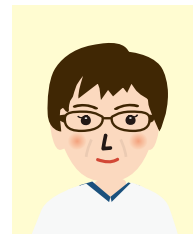
に抗原定量検査を導入しました。判定時間は20分とやや長くなりますが、これまでの検査方法とは違い判定が数値化される事や、同時にインフルエンザウイルスA・B型検査も行えます。

更に今までは、それぞれの検査に対し鼻咽頭ぬぐいを行っていましたが、1回のぬぐい綿棒で検査が可能のため、患者さんへの負担軽減にも繋がります。

対策をしていても感染する可能性が高い、これらウイルスに対し、その時々で最良な検査結果が報告できるように努めています。

最後に、ここまで「結果」に関するお話をしてきましたが、そこから始まるチーム医療にも関与しています。糖尿病患者さんへの、自己血糖測定の指導や貸出器を管理しています。また、栄養サポートが必要な対象患者さんを、血液データから割り出し、その後の評価などを行っています。

今後も、検査に関わる場面では、お気軽にご相談ください。



臨床検査技師
藤原 和希



新型コロナウイルス抗原定量検査
分析装置:Sysmex/HISCL



自己血糖測定器:
三和化学研究所/グルテストアクア
間歇スキャン式持続血糖測定器:
アボット/FreeStyle リブレ



皮膚科
劉 柱亨
(ゆう じゅひょん)

- ①平成22年(韓国)中央大学医学部卒。大阪大学医学部附属病院で初期研修を行い、令和3年に北海道大学皮膚科入局。函館中央病院、帯広厚生病院勤務を経て、令和6年4月より当院勤務。
- ②皮膚科
- ③旅行、グルメ巡り
- ④丁寧な診療を心がけ、患者様にとって最善の医療を提供できるよう精一杯努めます。



皮膚科
長田 悠里
(ながた ゆり)

- ①2017年北海道大学卒。JCHO北辰病院、北海道大学病院、小樽市立病院に勤務。2024年4月より当院勤務。
- ②皮膚科
- ③酒、料理、花、乗馬、和装、読書、音楽
- ④最善の医療を提供できるよう力を尽くしてまいります。



皮膚科
水上 卓哉
(みずかみ たくや)

- ①2016年札幌医科大学卒。北海道大学病院、市立札幌病院、KKR札幌医療センター、市立釧路総合病院での勤務を経て、2024年4月より当院勤務。
- ②皮膚科一般
- ③テニス、英語
- ④丁寧、親切な診療を心がけます。

言語聴覚士について



言語聴覚士
磯崎 孝輔

言語聴覚士(以下 ST)のリハビリの対象となる場合は、大きく分けて、難聴などの問題による聴覚障害を原因とするコミュニケーション障害、失語症や発達の遅れなどによる言語障害や、声や発音の障害。そして、近年、「誤嚥性肺炎」という病気で注目されている食べる機能の障害になります。

食べ物を飲み込むことを「嚥下」と言います。「誤嚥」とは、通常は食道を通過して胃へ運ばれる食物が、誤って気管へ流れ込んでしまう現象を言います。これが要因となって肺炎となった場合に「誤嚥性肺炎」となります。そのリハビリを行う療法士として、STという仕事も広く知られるようになりました。

日本においては、20年ほど前から最近まで、この誤嚥性肺炎が原因となって亡くなられる方が国民全体の死因の4位

まで急上昇して注目されました。65歳以上の方の肺炎のほとんどが誤嚥によるものと言われています。

脳卒中や、口、のどなどに嚥下障害の原因となる疾患がある場合は気をつけることができます。あらかじめ予防的な運動をしていくこともできますが、加齢によって少しずつ嚥下の機能が低下し、「なんだか最近むせるなあ・・・」が、「肺炎に・・・」という場合が少なくありません。

食べることは、栄養摂取のためだけでなく、生活の中での「楽しみ」です。食べられる嚥下機能の維持と、嚥下機能に心配がある場合には改善へ向けてサポートしていければと思います。今後とも宜しくお願い致します。



図:食事の姿勢について



整形外科
北村 ちひろ
(きたむら ちひろ)

- ①2012年札幌医科大学卒、斗南病院～札幌医科大学附属病院で初期研修、2014年札幌医科大学整形外科学講座入局。帯広協栄病院、こどもつくる、滝川市立病院、札幌医科大学附属病院、市立千歳市民病院などを経て、2024年4月より当院勤務。
- ②スポーツ診療、膝関節外科
- ③スポーツ観戦
- ④皆様のお役に立てるよう、丁寧な診療を心掛けます。



整形外科
井上 剣
(いのうえ けん)

- ①令和3年札幌医科大学卒、函館五稜郭病院で初期研修後、札幌医大整形外科学講座入局、札幌医大附属病院を経て令和6年4月から当院勤務。
- ②整形外科
- ③海外サッカー観戦、お酒
- ④患者様に寄り添う医療をモットーに日々精進していきます。



麻酔科
垣本 和人
(かきもと かずと)

- ①2016年札幌医科大学卒、函館五稜郭病院で初期研修後、札幌医科大学麻酔科学講座入局。市立室蘭総合病院、NTT東日本札幌病院を経て、2024年4月より当院勤務。
- ②手術麻酔
- ③旅、コーヒー
- ④患者さんに安全な麻酔を提供できるように努めています。

地域発

医療法人社団 西さっぽろ皮フ科・アレルギー科

副院長 宮澤 元 先生



当院は地下鉄東西線の発寒南駅から徒歩2分の場所に、2000年に開業。25年近く経過しました。4月より1人から2人体制での診療になります。

当院はアレルギー科を標榜しており、アトピー性皮膚炎や金属アレルギーなどのアレルギー性の皮膚疾患や食物アレルギーを含めた皮膚疾患全般を診ております。

アトピー性皮膚炎は、近年、生物学的製剤の登場で寛解する例が増えておりますが、経済的な都合により、まだまだ外用のみで治療を行わざるを得ない患者様が多い疾患です。当院はアトピー性皮膚炎の患者様が非常に多く、治療で最も基本となる外用を主体にコントロールをしている方が大半です。もちろん、生物学的製剤が必要な方には導入も行っております。看護師と協力し、それぞれの患者様に最適な治療を提供出来るように心がけています。

アレルギー性皮膚疾患に関しては、採血の検査だけではなく

- ・プリックテスト(食物アレルギーなどの即時型アレルギーの検査)
 - ・パッチテスト(湿疹の原因となる化粧品・金属アレルギーなどの検査)
- を行っております。

また、その他の治りの悪い皮膚疾患で受診される

患者様も多く、道内遠方から来院される患者様もいらっしゃいます。

その他として、

- ・乾癬などで使用される紫外線治療(全身型のNB-UVB)
- ・円形脱毛症の治療として使われる局所免疫療法(SADBE)
- ・じんま疹の生物学的製剤
- ・簡単な日帰り手術、陥入爪の治療なども行っております。

一番の特色としては、当院では患者様一人ひとりが最も適した治療を受けられるように、カウンセリングを重視し、多角的なアドバイスを行っております。皮膚疾患には内科的要因、環境的要因、心理的要因などが関係することがあります。患者様と一緒に適切な治療を考えていきます。ご希望の方には、漢方治療などの東洋医学的アプローチも取り入れていますので、お気軽にご相談ください。

JR札幌病院様をはじめとする札幌の中核病院と連携し、札幌だけでなく北海道の患者様により良い医療をお届けするよう尽力したいと思います。



宮澤 仁院長(写真右下)と病院スタッフ

医療法人社団 西さっぽろ皮フ科・アレルギー科

札幌市西区西町北7丁目2-11
西さっぽろメディカルビル3F
TEL 011-667-1199

院長 宮澤 仁

診療時間 午前 9:00～ (受付時間8:30～11:30)
午後 14:30～ (受付時間14:00～17:00)

休診日 水曜日・日曜日・祝日 ※第2・4土曜日

JR札幌病院 外来診療医師予定表

受付時間：【月～金曜日】 午前8:30～11:00 午後12:00～15:30

科		月	火	水	木	金	備考
消化器内科	午前	新患外来 (安達) 世戸	新患外来 (守谷) 安達	新患外来 (安達) 志谷	新患外来 (志谷) 守谷	新患外来 (守谷) 安達	午後診療は緊急を要する紹介患者さんのみとなります。
	午後	急患対応	急患対応	急患対応	急患対応	急患対応	
リウマチ科	午前	鈴木	鈴木	神田(出張医) (予約)	鈴木		
	午後		鈴木(予約)			鈴木(予約)	
呼吸器内科	午前	新患外来 市村	新患外来 四十坊 亀田	新患外来 四十坊	新患外来 市村 伊藤	新患外来 伊藤 亀田	予約の場合は、医療機関を窓口としてのご紹介をお願いします。
	午後				四十坊(予約)		
腎臓内科 糖尿病内科	午前	井垣 ^{*1}	腹膜透析専門 外来(予約)	吉田	富樫 ^{*1}		※1:糖尿病内科 富樫医師(腎臓内科兼務) 井垣医師(腎臓内科兼務)
	午後	富樫(予約) ^{*1}		吉田(予約) 井垣(予約) ^{*1}	腹膜透析専門 外来(予約)	吉田(予約)	
循環器内科	午前	清水 一村(出張医)	大沼	一村(出張医) ペースメーカー 専門外来	長谷川	吉岡	午後診療は予約の患者のみとなります ペースメーカー専門外来 水曜日(予約のみ)
	午後	検査	長谷川(予約) 吉岡(予約)	検査	大沼(予約)	検査	
外科 乳腺外科	午前	西舘	石村	鶴間	平田 ^{*2} 西舘	鶴間 田山	診察は予約制 ※2:乳腺専門外来 13:00～ ※3:便失禁・便秘外来(完全予約制) 金曜日 14:30～
	午後	(手術)	平田 ^{*2}	鶴間(予約)	(手術)	鶴間 ^{*3}	
血管外科 呼吸器外科	午前	小濱	小濱	(検査)	(手術)	川原田 ^{*4} (専門外来)	診察は予約制 ※4:川原田医師の専門外来は動脈瘤
	午後	(検査)	(検査)	(検査)	(手術)	(手術)	
産婦人科	午前	山中	山中	山中	山中	山中	
	午後	(手術)	(検査)	(手術)	(検査)	(検査)	
歯科 口腔外科	午前	小林 北川 阿部	小林 北川 阿部	小林 北川 阿部	小林 北川 阿部	小林 北川 阿部	診察は予約制
	午後	北川 (手術)	北川 (手術)	北川 (手術)	北川 (手術)	北川 (手術)	
眼科	午前	田中 藤本	田中 藤本	田中 北潟谷	田中 北潟谷	藤本 北潟谷	診察は予約制
	午後	(手術)	(術前検査)	(手術)	予約(検査・治療)	予約(検査・治療)	
泌尿器科	午前	北原	北原	永森	舘岡	北原	
	午後	(手術)	舘岡	(手術)	(手術)	舘岡	
耳鼻咽喉科	午前	染川(予約) 長島	久保	染川(予約) 長島	久保 長島(第2・4) ^{*6}	久保	診察は予約制 ※5:中耳術後専門外来 ※6:第2・4木曜日は中耳専門外来(予約制)
	午後	染川(予約) ^{*5}	(手術)	(検査)	(手術)(検査)	(手術)	
皮膚科	午前	水上 長田 伊藤(予約)	長田 劉 伊藤(予約)	劉 水上 伊藤(予約)	水上 劉	水上 不定 伊藤(予約)	午後診療は予約患者及び紹介状持参の患者のみ ※7:レーザー専門外来(予約)
	午後	劉(予約) 伊藤(予約)	水上(予約) 伊藤(予約)	長田(予約) 伊藤(予約)	劉(予約)	長田(予約) 伊藤(予約) ^{*7}	
整形外科	午前	塚本(出張医) 北村	金谷 北村	井上 岡田(出張医)	金谷 小助川(出張医)	金谷 北村	
	午後	(手術) (検査)	(手術)	(検査)	(手術)	(検査)	

土曜日は休診となります。

編集後記

新年度を迎え、新任で配属された方々が当院に慣れ親しんできた今日この頃。「ほっとネット」は創刊21年目を迎え、医療者としては、ベテランと言える時期になりました。

今後も過信することなく、当院のほっとな話題をホームページ、紙面で随時提供していきますので、お楽しみに(^^) _U_ (ダイソ)

発行日/2024年6月15日

編集長/長谷川 徹

編集者/大村 早代・谷口 きよみ・石川 剛・藤原 和希・寺田 基章
純樹・中村 拓海・高橋 竜太・那須野 由朗

発行所/札幌市中央区北3条東1丁目

JR札幌病院 広報誌企画編集委員会

<https://hospital.jrhokkaido.co.jp/>